

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成20年12月11日(2008.12.11)

【公開番号】特開2007-272509(P2007-272509A)

【公開日】平成19年10月18日(2007.10.18)

【年通号数】公開・登録公報2007-040

【出願番号】特願2006-96508(P2006-96508)

【国際特許分類】

G 0 6 F 17/50 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 17/50 6 0 8 B

G 0 6 F 17/50 6 0 6 D

【手続補正書】

【提出日】平成20年10月28日(2008.10.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

C A D データ上で、形状要素の複数の構成部品の仕様を該構成部品に応じて複数段で示す部品欄の作成を行う部品欄作成装置において、

前記部品欄と他の形状要素の重なりを検出する手段と、

前記重なりが検出されたときに、前記部品欄の複数段のうち前記形状要素と重なる段数を求める手段と、

前記重なる段数の構成部品の部分を、上記部品欄より分離して前記形状要素と重ならない位置に移動させて新規の部品欄を作成する手段と、

を有することを特徴とする部品欄作成装置。

【請求項 2】

請求項 1 記載の部品欄作成装置において、

操作者からの入力手段を有し、

前記移動させる手段は、前記入力手段から得られる情報に基づいて前記重なる段数の部分を移動させる方向を決定することを特徴とする部品欄作成装置。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 記載の部品欄作成装置において、

前記重なりが検出された場合に、前記部品欄の各段の高さを縮める欄圧縮手段を有し、

前記欄圧縮手段により前記部品欄の各段の高さを所定高さまで縮めても重なりが発生するときに限り、前記重なる段数の部分を、前記形状要素と重ならない方向に移動させることを特徴とする部品欄作成装置。

【請求項 4】

C A D データ上で、形状要素の複数の構成部品の仕様を該構成部品に応じて複数段で示す部品欄の作成を行う部品欄作成方法において、

コンピュータの重なり検出手段により、部品欄と他の形状要素の重なりを検出する工程と、

前記重なりが検出されたときに、コンピュータの重なり段数検出手段により、前記形状要素と重なる段数を求める工程と、

コンピュータの改行手段により、前記重なる段数の部分を、前記形状要素と重ならない

方向に移動させる工程と、

を有することを特徴とする部品欄作成方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

図面には、図枠と、製作対象である形状要素の作図領域と、一連の書誌的事項が記載される表題欄と、形状要素の複数の構成部品の仕様を該構成部品に応じて複数段で示す部品欄とが記載されることが一般的である。作図領域は図枠内の中央部に設けられ、表題欄は図枠内の右下部に描かれる。これに対して、部品欄は形状要素と表題欄を記載した後の余白部分に記載され、例えば図枠内の右上部又は左上部に描かれる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

第4の特徴：CADデータ上で、形状要素の複数の構成部品の仕様を該構成部品に応じて複数段で示す部品欄の作成を行う部品欄作成方法において、コンピュータの重なり検出手段により、部品欄と他の形状要素の重なりを検出する工程と、前記重なりが検出されたときに、コンピュータの重なり段数検出手段により、前記形状要素と重なる段数を求める工程と、コンピュータの改行手段により、前記重なる段数の部分を、前記形状要素と重ならない方向に移動させる工程とを有することを特徴とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0052

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0052】

また、操作者は部品欄36を改行した結果をディスプレイ22の表示画面上で確認をし、好みやレイアウトのバランスを考慮して、改行段表示部60e（図4参照）を操作して改行する段数を調整してもよい。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1】

FIG. 1

